

報告 「学問のすすめ」 第8回講演会 第一報

リサーチマインドを持った臨床家は、新しい医療を創造することができます。難題を抱えている医療の現場ですが、それを打破してくれるのは若い人たちのエネルギーです。

本講演会は、若い医師とそれを支える指導者に、夢と希望を持って学問そして臨床に励んでもほしいと、2010年2月より済生会新潟第二病院眼科が主催して細々と続けている企画です。開催が地方病院の眼科であり、実際の参加者はあまり多くありません。しかし情報は日本全国の700名を超す医師および医療関係者に直接メールで配信し、さらに幾つかのMLを介して全国の数千人以上の方に届いています。

「学問のすすめ」講演会、第8回の今回は、糖尿病に関係したお二人に講師をお願いしました。一人はわが国の糖尿病研究の第一人者で、糖尿病の成因を精力的に模索しエビデンスに基づいた治療について追及している門脇 孝 先生（東京大学内科教授、日本糖尿病学会理事長）、もう一人は、我が国の糖尿病網膜症の第一人者で、眼科に統計的手法を本格的に導入し、眼科学が糖尿病の診療にどのようにして貢献していくかを疫学の切り口で語る山下 英俊 先生（山形大学眼科教授、医学部長）です。

先生方の取り組んでこられた研究テーマを中心に、これからの医療を背負う人たちに、夢を持って仕事・学問をしてもらいたいという若い人へのメッセージを添えての講演でした。

「学問のすすめ」 第8回講演会

日時：2012年9月15日（土） 15時～18時

会場：済生会新潟第二病院 10階会議室A

主催：済生会新潟第二病院 眼科

「疫学を基礎とした眼科学の展開」

山下 英俊 （山形大学眼科教授、医学部長）

「2型糖尿病の成因と治療戦略」

門脇 孝 （東京大学内科教授、日本糖尿病学会理事長）

今回は、山下先生の講演要約を報告致します。

「疫学を基礎とした眼科学の展開」

山下英俊 （山形大学医学部眼科学）

疫学研究は、その歴史として、ジョン・スノーのコレラに対する研究、日本では高木家寛の海軍における脚気の研究から発展したと考えられている。疫学のコンセプトは、原因不明の疾患の治療、できないまでも何らかの対応のために、実際にその現場で起こっている事実をきちんと調べてデータを集めること、集められるデータの意味を目的にそって理論的に解析し意味づけをすること、その時点でのベストの対策を立てるというものである。ジョン・スノーの疫学研究の時点ではコレラ菌は発見されておらず、のちにロベルト・コッホの研究まで待たねばならない。また、脚気の原因はビタミンB1の不足であるが、ビタミンB1の鈴木梅太郎による発見は高木兼寛の脚気研究とその成果としての海軍における脚気の減少のずっと後のことである。これらの事実により、原因不明でも目の前の患者にその時点でのベストの治療を施行することをその職務と考えている臨床医にとって、疫学はとても大切な学問であると考えられる。また、疫学の研究はとくに社会との連携（住民、地方自治体など）がとても重要であり、研究のみを前面に押し出すのではなく、あくまで目の前のひとのためになるという視点をもって企画し、研究を遂行することにより長期に継続が可能になる。疫学を用いて、まだ解決していない糖尿病網膜症による視力障害に対する医療の闘い、チャレンジを紹介した。

WHOのメタアナリシスによると、世界における糖尿病患者数2000年に約1億7千万人、2030年には倍増すると推計している。日本の患者数としては厚生労働省国民栄養調査と同時に行われている糖尿病実態調査によると、平成9年690万人、平成14年740万人、平成19年890万人と急激に増加している。これはWHOの推計を上回る速度である。糖尿病網膜症についてはMETA-EYE Study (TY Wong教授)メタアナリシスによると、現在、糖尿病網膜症患者は約1億人に上るとの推計がある。糖尿病網膜症は後天性視力障害の原因の約5分の1をしめ、大きな社会問題にもなっている。このような状態に対応するための治療をすすめる、国民全体の視力を生涯にわたって保持することが眼科医の国民に提供する医療の基本戦略である。厚生労働省が健康寿命を延ばし平均寿命に近づける基本政策を打ち出していることに対応して、健康寿命を指させる健康視力の保持という戦略を打ち立てる必要がある。

眼科医として、糖尿病網膜症の現状と今後の課題を考える必要がある。治療戦略の柱として本講演では3つの柱を提示した。(1) 増加する糖尿病網膜症をきちんと治療する戦略、(2) 予防医学の推進、(3) 糖尿病患者数の増加にともなう大血管合併症(心筋梗塞、脳卒中)、細小血管合併症(網膜症、腎症、神経症)の増加の総合的な対策に対する眼科医としての貢献である。これは、我々眼科医が糖尿病診療体系の中での糖尿病網膜症診療レベルを高め、失明をふせぐ医療を推進すること、それに満足せず、糖尿病患者の寿命を延ばし、健康寿命を延ばすために糖尿病診療全体に協力、貢献していくことが重要であることを示した。このような眼科医療の進歩は近年の疫学研究の進歩により大いに推進されてきた。

以上のように眼科学が今日の日本の医療において大きな問題である糖尿病の診療にどのようにして貢献していくかを疫学の切り口で絞殺した。その際に大切であるのは、眼科医学が医学全体に貢献することで社会全体に貢献するという視点をいつもも

ちつづけることである。

学問、そしてそれを担当する臨床医、医学研究者がこのような使命を果たすためには、有為な人材を継続的に育成することである。すぐれた研究者のもとにはすぐれた弟子が育成され、さらにすぐれた研究が育つ。教える側からの視点ではこのような教育の連鎖のなかで弟子を育成しているという歴史的な責任感を持つこと、学問の面白さと臨床を行う上での高度な倫理観をきちんと伝えることが大切である。教えを受ける若い世帯には、ぜひ、いい恩師を見つけて、ひとのためになる研究が楽しく素晴らしいものであるかという興奮を受けついでほしいと考えている。そして、恩師への恩返しはその受けた教育、薫陶を次の世代につなげることであるという使命感をもってもらいたいということである。

【略歴】 山下 英俊 (山形大学眼科教授、医学部長)
1981年6月 東京大学医学部眼科学教室医員 (研修医)
1982年4月 東京大学医学部眼科学講座助手
1985年1月 国家公務員等共済組合連合会三宿病院、自衛隊中央病院眼科
1987年1月 東京大学医学部眼科学教室講師
1992年5月-1994年8月 スウェーデン、ウプサラ大学へ留学。
1994年9月 東京大学医学部眼科学教室講師へ復職。
1999年7月 山形大学医学部眼科学教授
2003年11月～2010年3月 山形大学医学部附属病院院長兼務
2010年4月1日より 山形大学医学部長兼務

これまでの「学問のすすめ」講演会 プログラム

第1回「学問のすすめ」講演会

日時：2010年2月6日 (土) 14時～17時

場所：済生会新潟第二病院

主催～済生会新潟第二病院眼科

「留学のススメー留学を決めたワケと向こうでしてきたことー

(人工網膜、上脈絡膜腔刺激電極による網膜再構築、

次世代の硝子体手術器機開発、

マイクロバブルを使用した超音波治療などについて)」

松岡 尚気 (新潟大学)

「網膜・視神経疾患における神経保護治療のあり方は?

-神経栄養因子とグルタミン酸毒性に注目して-

関 正明 (新潟大学)

第2回「学問のすすめ」講演会

日時：2010年10月9日（土）15時30分～18時30分
場所：済生会新潟第二病院 10階会議室
主催～済生会新潟第二病院眼科
「拡散強調MRIによる視神経軸索障害の定量的評価」
植木 智志（新潟大学眼科）
「強度近視の臨床研究を通してのメッセージ
～ clinical scientistを目指して」
大野 京子（東京医科歯科大学眼科 准教授）

第3回「学問のすすめ」講演会

日時：2011年4月2日（土）15時～18時
場所：済生会新潟第二病院 10階会議室
主催～済生会新潟第二病院眼科
「眼の恒常性の不思議 “Immune privilege” の謎を解く
－ 亡き恩師からのミッション」
堀 純子（日本医大眼科；准教授）
「わがGlaucomatologyの歩みから」
岩田 和雄（新潟大学眼科；名誉教授）

第4回「学問のすすめ」講演会

日時：2011年6月12日（日） 9：00～12：00
会場：済生会新潟第二病院 10階会議室
主催：済生会新潟第二病院眼科
「経角膜電気刺激治療について」
畑瀬哲尚（新潟大学）
「臨床研究における『運・鈍・根』」
三宅養三（愛知医大理事長 名古屋大学名誉教授）

第5回「学問のすすめ」講演会

日時：2011年10月29日（土）16時30分～19時30分
会場：済生会新潟第二病院 10階会議室
主催：済生会新潟第二病院眼科
「神経再生の最前線－神経成長円錐の機能解明に向けて－」
梅野 哲哉（新潟大学）
「私と緑内障」
岩瀬 愛子（たじみ岩瀬眼科）

第6回「学問のすすめ」講演会

日時：2012年3月17日（土）15：00～18：00

会場：済生会新潟第二病院 10階会議室

主催：済生会新潟第二病院眼科

「糖尿病網膜症と全身状態

— どの位のHbA1cが何年位続けば網膜症は発症するのか？」

廣瀬 晶 (東京女子医大糖尿病センター眼科)

「私の歩いた一筋の道

糖尿病と妊娠の分野を開拓しながら学んだ事」

大森安恵 (海老名総合病院 糖尿病センター長)

(東京女子医科大学名誉教授；内科)

第7回「学問のすすめ」講演会

日時：2012年6月10日(日) 9時～12時

会場：済生会新潟第二病院 10階会議室

主催：済生会新潟第二病院 眼科

「遺伝性網膜変性疾患の分子遺伝学」

中沢 満 (弘前大学大学院医学研究科眼科学講座教授)

「iPS細胞—基礎研究から臨床、産業へ」

高橋 政代 (理化学研究所)

以下、署名です

*勤務先*****

950-1104 新潟市西区寺地280-7

済生会新潟第二病院眼科

安藤 伸朗 Noburo Ando,MD

phone 025-233-6161

Fax 025-233-6220

e-mail gankando@sweet.ocn.ne.jp

<http://www.ngt.saiseikai.or.jp/>
